

成果報告書

[協働研究事業名]

動物たちが語るSDGs『三鷹！動物かんきょう会議』
(三鷹モデル) の開発と三鷹市での再現実証の研究

[提出日]

2022.2.18

[協働研究事業団体名]

株式会社ヌールエ デザイン総合研究所

目次

[1] 協働研究事業の概要・目的	— 3
[2] 申請団体のプロフィール	— 4
[3] 協働研究事業の参加団体プロフィール	— 5
[4] 協働研究事業の期間	— 5
[5] 協働研究事業の背景	— 6
[6] 協働研究事業の詳細	— 8
[7] 実験結果	— 21
[8] 実験の考察	— 24
[9] 今後の計画	— 27
[10] その他	— 28

〔1〕協働研究事業の概要・目的

ジュニア世代の人財育成事業である対話型ワークショップ「動物かんきょう会議」（本メソッド）をベースに、

- ①三鷹リソースを活かした「三鷹モデル」をオリジナルに開発（地域ローカライズ）すること。
 - ②三鷹人財を中心にインストラクター役、専門家役となり実際に「三鷹！動物かんきょう会議」を実施すること。
 - ③本メソッドの可能性と有効性、三鷹市で実施することの意義を考察すること
- が本研究事業の目的である。

【協働研究事業申請時の「概要と目的」】

①本研究の全体概要（その1 研究1年目：2020年度）

2018年からSDGs未来都市の山口県宇部市と取り組んでいるジュニア世代の人材育成事業（宇部モデル）を三鷹市で再現実証することを研究テーマに、2020年に三鷹まちづくり総合研究所のまちづくり研究員となった。しかし、同年はコロナウィルスの影響があり研究活動が長期停滞した。そこで、2020年度は本メソッドを非対面型でも実施できる仕様にする 것을目指すことに変更。宇部市側で実施する『インストラクター養成講座（DOO）』『教室プログラム（ROOM）』『動物園プログラム（ZOO）』を非対面型で実施し、同時に動画教材の制作、ITシステム環境の開発を進めた。その結果、従来の宇部市民のみが参加する『せかい！動物かんきょう会議』から、国内外の子どもたち、大人たちが同時参加できる「非対面型プログラム」へとアップデートできた。

②本研究の全体概要（その2 研究2年目：2021年度）

2021年、宇部市の「動物かんきょう会議」開催スケジュールをシンクロする形で**三鷹仕様の「三鷹！動物かんきょう会議」を実施することを目的**にする。宇部市・三鷹市共通テーマは「動物と人間とが共生できる持続可能社会、人間の役割の探求」、対話する動物（相手）が、宇部市側では「猿（類人猿のシロテ テナガザル、真猿のニホンザル等）」であるのに対し、三鷹市側は「多摩地域（三鷹～奥多摩）の野生動物（イノシシ、シカ）と絶滅した動物（オオカミ）」を想定している。対話のテーマ教材『動物たちが語るSDGs（三鷹バージョン）』を専門家による指導のもと新規開発する。

〔2〕申請団体のプロフィール

株式会社ヌールエ デザイン総合研究所

〔主な業務内容〕

- ・動物かんきょう会議プロジェクト 著作／開発元
- ・のら猫クロッチプロジェクト 著作／開発元
- ・デザイン業
- ・IT業
- ・教育サービス業

〔会社案内〕

1997年、「異文化コミュニケーション」と「環境問題」、この2つのテーマを掲げて「動物かんきょう会議」プロジェクトを発足させた。そして今日までの25年間に、絵本シリーズの出版、NHKアニメーションシリーズの製作、子どもから大人までを対象にしたワークショップを多数開催しながら、世界に向けて発信・展開してきた。「命の大切さ」と「他者への思いやり」の大切さを伝えるキャラクター「のら猫クロッチ」も、ここから誕生した。

これらの活動に取り組む過程で、わたしたちは次第に「動物への共感と敬意」を感じ、「動物と人間の共生」を目指すことなしに、わたしたち人間の未来などありえないのではないかと考えるようになった。わたしたちが、動物たちやこの地球上の数多の命から受けている恩恵について心に向けること。今日、人間の欲望の犠牲者として悲惨な境遇に置かれ命を奪われ続けている動物たちの現状を知ろうとすること。

その上で、人間だけに与えられた「地球を変える力」を発揮して、動物たちと自然界と共生する人間へと進化すること。このことのために、わたしたちは「動物かんきょう会議」と「のら猫クロッチ」を基軸にした社会事業を進めていきたいと考えている。

[3] 協働研究事業の参加団体プロフィール

	団体名	主な役割
1	東京農工大学 (朝岡幸彦 研究室)	・ 地域生態システム学科 人間自然共生学講座 (社会教育・環境教育)
2	株式会社糸あやつり人形一糸座	・ 伝統的江戸あやつり人形芝居の企画制作～上演
3	スタジオ・ニィニィイチ	・ 映像作品の企画制作、脚本、撮影～編集
4	エコロジーオンライン	・ 環境問題の専門家 ・ コンテンツ制作
5	株式会社オープンハウス	・ サステナブルデザインの専門家 ・ コンテンツ制作
6	トシャレコム	・ WEB制作～システム開発

[4] 協働研究事業の期間

2021年6月～2022年2月

[A] リソース調査

[B] 三鷹モデルの独自コンテンツの企画開発

[C] イベント「三鷹！動物かんきょう会議」の実施

[D] 研究考察

[5] 協働研究事業の背景

【協働研究事業申請時の「本研究の背景と目的」】

Society5.0時代。人工知能（AI）の活用が一般化する時代に求められる能力はクリエイティブだと言われている。しかし、わが国は少子化に加え、子どもたちの大半は諸外国に比べて自己肯定感がとても低い。高校生を対象とした意識調査で、「私は価値のある人だと思う」という質問に対し「全くそうだ」と答えた人の割合は、アメリカ（57%）、中国（42%）、韓国（20%）に対して日本（8%）というデータがある。

（出典：高校生の心と体の健康に関する調査／財団法人日本青少年研究所2011年）

本研究事業の目的は、『クリエイティブ x 自己肯定感 x 自分と他者との関係性への気づき』に着目したオリジナルメソッドをとおして、SDGs課題に果敢にチャレンジできる次世代人材を育成すること。

これまでの研究成果：

2015年、自己肯定感を高めるオリジナルメソッド『せかい！動物かんきょう会議』を独自開発。「動物になって考えよう」を合言葉に、国内外の多様な子どもたち・若者たち※が対話を重ねる場づくりプログラムを国内外で実施。2017年に第11回キッズデザインにて優秀賞・消費者担当大臣賞を受賞。

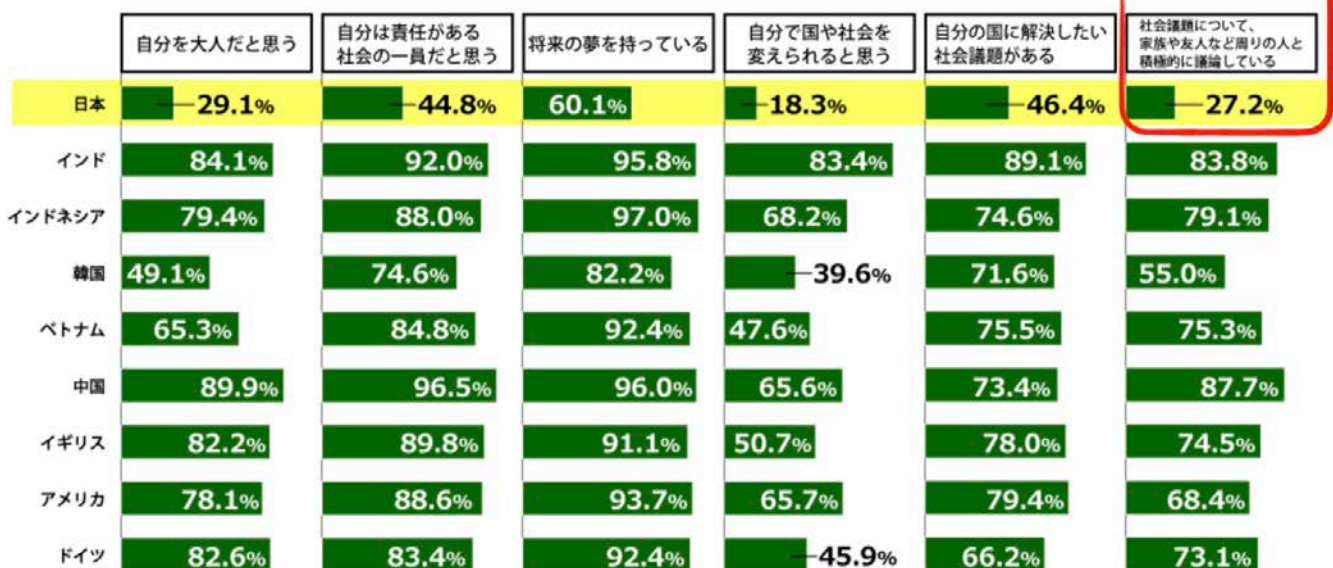
※海外の子どもたち：ミャンマー・タイ・モンゴル・インドネシア・インド等 若者たち：新潟大学、東京農工大学、青山学院、獨協大学、KAI日本 スクール等 3,400名以上

研究着手後、日本財団による下記資料「自分自身について」から次のような着想を得る。

自分自身について

原因はここにある

世界9カ国の18歳（N=1000）の意識調査（日本財団2019）



【追加された着想 「本研究の背景と目的」】

AI時代に必要とされる能力は主体性やクリエイティブである。しかし、日本の子どもたち・若者は諸外国に比べて自己肯定感が低く依存型の傾向にある。そして、このメンタル状態のまま歳を重ねているのが今の大人たちとも言えるのではないだろうか。

この状況の根本原因は、
問い「社会課題について家族や友人など周りの人と積極的に議論している」

日本：27.2% インド：83.8% 中国：87.7% ドイツ：73.1%

にあると考える。

今の日本は、圧倒的に「対話」の機会が足りなかった。

つまり、視点を高く、クリエイティブな「対話」を重ねれば、社会課題に果敢にチャレンジできる次世代人材を育成できるはずだ。

また、本協働研究事業での第二次審査プレゼンテーションの中で、専門家（審査委員）より次のようなアドバイスを得る。

【アドバイス】

本研究事業は、昨今のSDGsの流れを受けて、「SDGs課題を果敢にチャレンジできる次世代人財育成」を目標としているのですが、「動物かんきょう会議」プロジェクトのこれまでの活動理念を活かすのならば、SDGsとは少し距離をおいた方がいい。

(2021.5.21 第二次審査プレゼンテーション／三鷹ネットワーク大学)

本アドバイスをもとに、

当初の

動物たちが語るSDGs『三鷹！動物かんきょう会議』
を

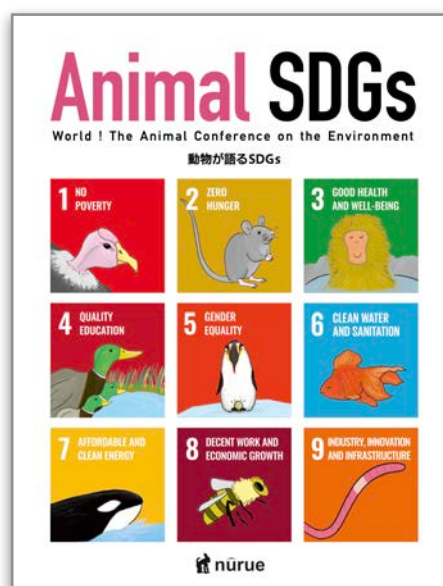
Animal SDGs

動物が語るSDGs『三鷹！動物かんきょう会議』

と再定義することにした。

そして、本研究の課題・背景とその解決に向けたアプローチは「クリエイティブな対話」とした。

対話を促すストーリーとして「コンセプトブック」の制作に着手し、2021年10月に0号版（フルカラー、148ページ）を発行した。



[6] 協働研究事業の詳細

【協働研究事業申請時の「研究計画・方法」】

三鷹市（多摩地区）の特徴を生かしたテーマで『せかい！動物かんきょう会議』を実証実験

※参考：同時開催する宇部市側の「動物かんきょう会議」は宇部市主催で実施する（別予算）

【A】6～7月

準備①：対話する動物についてリサーチ（候補）

- ・多摩地域の野生動物（イノシシ、シカ、タヌキ）
- ・井の頭動物園にいる動物（タヌキ、アライグマ、ハクビシン、野鳥、水生動物）
- ・かつて多摩地域にいて絶滅した動物（ニホンオオカミ） 他

準備②：協働研究パートナーをリサーチ（候補）

- ・東京農工大学（地域生態システム学科） 「野生動物の駆除」
- ・日本オオカミ協会（元東京農工大学教授） 「オオカミの再導入」
- ・阿咩ラボ（JOMONアーティスト）
「イエローストーン国立公園でオオカミ再導入して25年の報告」
「武蔵御嶽神社 日本人とオオカミの関係性」 他

【B】8～10月

各種取材～撮影、編集。教材開発。

- ・8～10月「三鷹！動物かんきょう会議」参加者に事前学習を促す動画教材づくり
- ・9月「三鷹！動物かんきょう会議」参加募集告知（チラシ印刷、WEB制作、SNS）
- ・10月 参加者向けに事前学習動画を公開

【C】11月～12月

「三鷹！動物かんきょう会議」を2テーマで実施

- ・テーマ1「野生動物の駆除」 テーマ2「オオカミ再導入」
- ・1日プログラム（ROOM）を実施 x 2回
午前「動物になって考える」（人間→動物へポジションチェンジ）
午後「専門家によるテーマ講義＋対話の場」（動物会議→人間に戻る）で構成
- ・参加者は、会議で対話したテーマについて探究し、各自レポートを作成する
- ・1～2週間後に「全体会議」を開催。レポートを持ち寄り発表（自由参加、記念品）
- ・実施場所の検討（三鷹！ネットワーク大学、学童、コミュニティスクール 他）

【D】12月

宇部市の「動物かんきょう会議」との交流計画

- ・宇部市で11月～12月に開催する「動物園プログラム」、2022年1月～2月に開催する「全体会議」に③参加者（三鷹市民）は参加できる。地域間交流の機会をつくる。

【E】2022年1月

- ・まちづくり研究員 研究レポートの完成

以下は、実際の研究の進み方である。

[A] 6～7月：対話する動物、協働研究パートナーの決定

対話する動物候補のリサーチを進めていく中で、次のような資料を発見する。

1：地球上の哺乳類は、人間（36%）と家畜（60%）で9割以上である

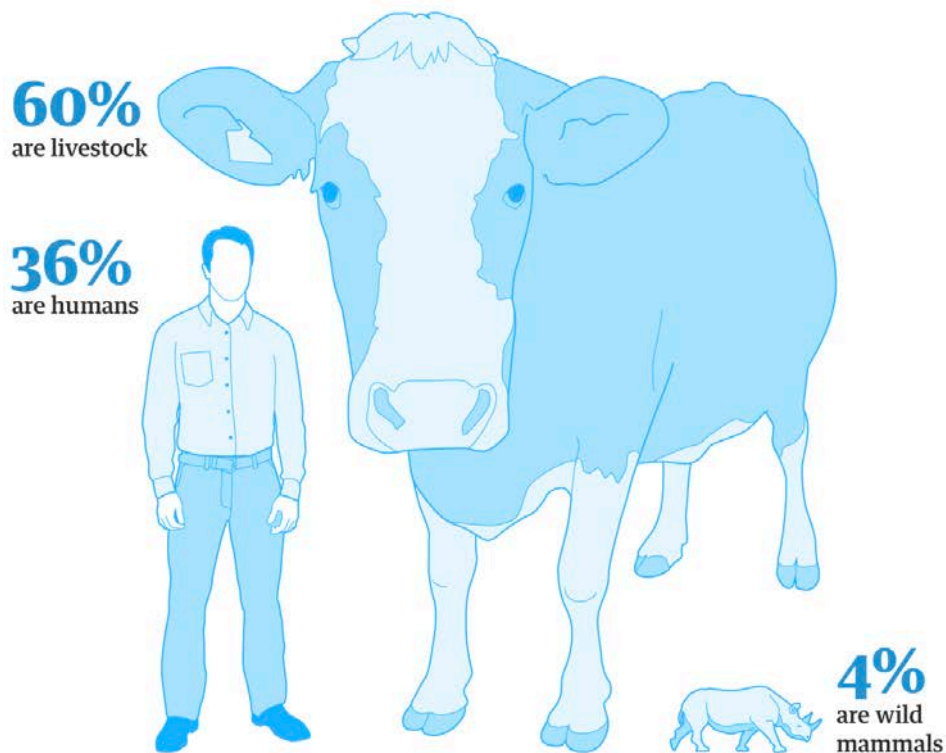
Guardian graphic.

The transformation of the planet by human activity has led scientists to the brink of **declaring a new geological era - the Anthropocene**. One suggested marker for this change are the **bones of the domestic chicken**, now ubiquitous across the globe.

The new work reveals that farmed poultry today makes up 70% of all birds on the planet, with just 30% being wild. The picture is even more stark for mammals - 60% of all mammals on Earth are livestock, mostly cattle and pigs, 36% are human and just 4% are wild animals.

“It is pretty staggering,” said Milo. “In wildlife films, we see flocks of birds, of every kind, in vast amounts, and then when we did the analysis we found there are [far] more domesticated birds.”

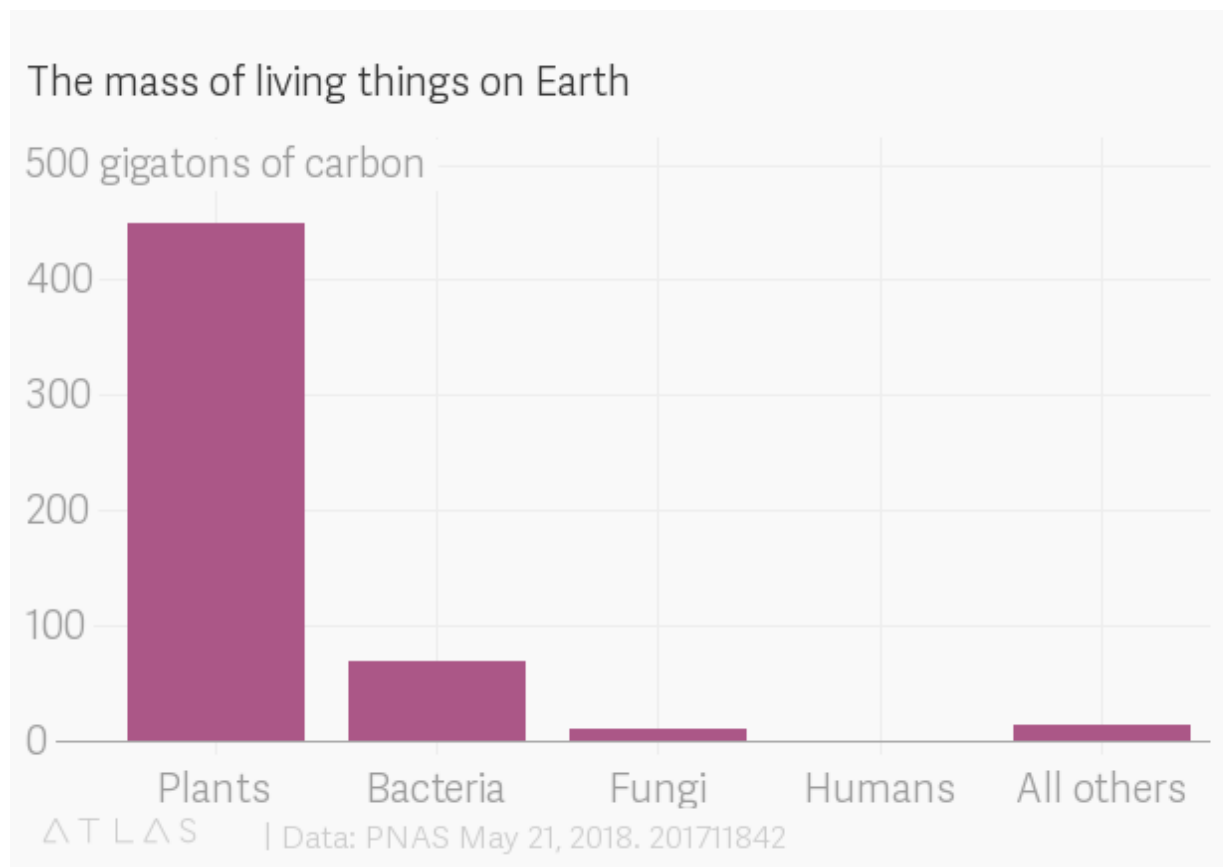
Of all the mammals on Earth, 96% are livestock and humans, only 4% are wild mammals



[出典：The Guardian（2018）]

<https://www.theguardian.com/environment/2018/may/21/human-race-just-001-of-all-life-but-has-destroyed-over-80-of-wild-mammals-study>

2：地球の生物量の0.01%にすぎない人間がもたらす甚大なインパクト



[出典：World Economic Forum (2018)] <https://jp.weforum.org/agenda/2018/08/0-01/>

『研究結果から、人類が果たすべき生態学的役割を示すことができます。総数という点では、人間の総数は地球の総生物量の0.01%にすぎず、誤差として無視できるほど僅かです。しかし、少数派の我々が持つ役割を無視することはできません。人間がもたらすインパクトは甚大なのです。地球史に人類が登場した時点から今日まで、地球の総生物量は半減しています。これは、農地や放牧地を作るために人間が森林破壊を行ってきたことに大きく起因しています。

こうした数字は、これまでに人類がどれほど多くの生物体を絶滅に追いやったかという事実のみならず、近年、生き残っている生物を我々がいかに変化させてきたのかを新たに気づかせるものでした。過去数世紀にわたり、野生哺乳類の総数は何倍にも減少。今日の家畜哺乳類の総数は野生哺乳類の20倍です。娘と一緒に遊んだジグソーパズルには、ゾウとサイの隣にキリンが描かれていましたが、地球の野生生物の総数からはひどくかけ離れたイメージです。もし、現在の生物量を踏まえてこのイメージを考え直さなければならぬのなら、そこには牛が描かれ、その隣に牛、またその隣に牛、そして豚、という何ら面白みもない絵柄であるべきだということになります。』（引用）

このようにして、「三鷹！動物かんきょう会議」で取り上げるテーマとして、「家畜」がクローズアップされた。理由は、

- ①わたしたち都市生活者として大量の家畜類を消費していること。
- ②家畜の定義、どのような環境で飼われ、生産され、屠殺されているかについて、考える機会はほとんどないこと。
- ③家畜のゲップ（CO2やメタン）が気候変動に大きく影響を与えているコンテンツは、これまでの「動物かんきょう会議」にはなかったこと。

**「三鷹！動物かんきょう会議」でのテーマは野生動物でもオオカミでもなく、
「家畜」に変更し、決定した。**

家畜をテーマにした場合の専門家へのアプローチを模索していることを、三鷹ネットワーク大学の宇山氏に伝えたところ、東京農工大学の朝岡幸彦教授の研究テーマが、本事業と相性がいいのではと連絡があり、朝岡研究室に連絡を入れる。

朝岡先生からは、「現在、上野動物園をフィールドに、動物園を活かした環境学習のガイドラインづくりを文科省事業で取り組んでいる。しかしコロナ禍で研究が停滞している。日本初の全園生息環境展示の宇部市の『ときわ動物園』には注目しており、その動物園での対話型アクティビティには興味があるので会いましょう」となり、8月31日に宇山氏とともに訪問。ときわ動物園での「動物かんきょう会議」の取り組みをプレゼンテーションする。

【朝岡教授からのアドバイス】

- ① 先生の役割は、正しい情報をデータにもとづき教えること。しかし、動物かんきょう会議のインストラクターは先生役ではなく気づきを与えるのが役割で、気づかされた側に「知った者の責任」が発生する。そういう意味でもユニークな取り組みである。
- ② 環境問題は、人間視点で生徒には教えることが普通で、動物視点になって人間活動を俯瞰してみるという発想はおもしろい。この「おもしろい」という要素は、子どもたちに学びを促していくうえでとても重要な要素である。
- ③ 家畜をテーマにすることは、さまざまな利権が複雑に絡み合い難しいテーマだが、研究には協力できる。「こども環境学」（新星出版社）という学習書をいっしょにつくった助手の河村幸子氏が関心のあるテーマである。

（2021.8.31／東京農工大学 朝岡研究室）

そして、研究室ゼミ生も加えて、9月から月1回の定例会を行うことを提案いただいた。

「三鷹！動物かんきょう会議」の開発に、テーマ「家畜」の専門家として、東京農工大学の朝岡幸彦教授と河村幸子（大学院生）が加わってのコンテンツづくりが決定した。

【B】 8～11月：三鷹モデルのコンテンツづくり

朝岡先生のアドバイスを受け、三鷹モデルのコンテンツの仕様を次の通りとする。

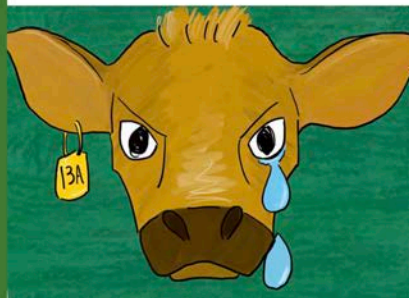
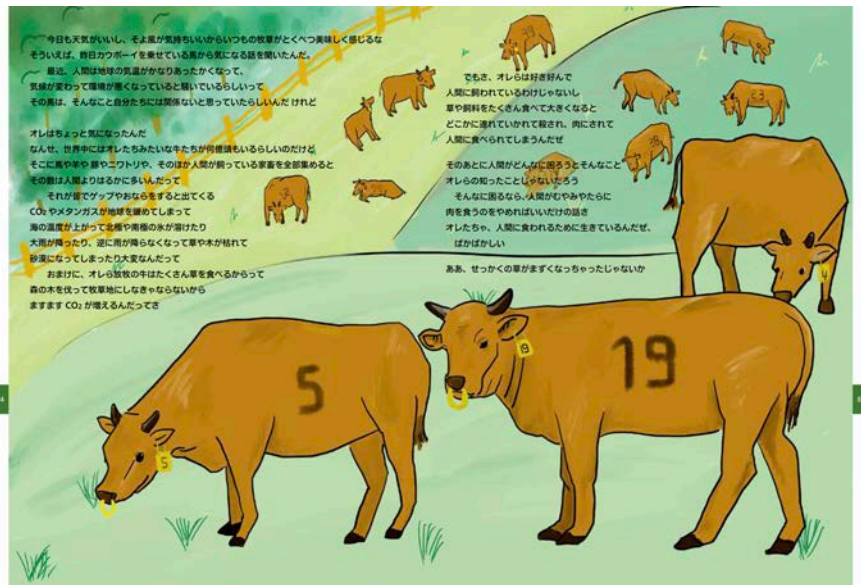
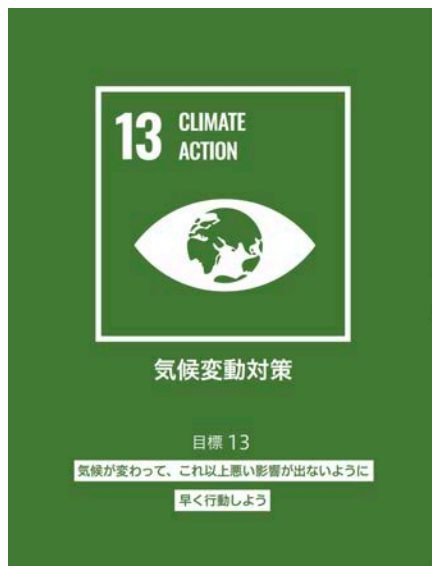
- ① Animal SDGsの第13番「気候変動対策」を語る動物として牛を登場させて、新たな脚本をつくる。脚本は、Animal SDGsの共著者である益田文和氏に依頼する。
- ② 子どもたちにとって興味喚起を促す「おもしろい」要素を一步前進させる。これまでのイラストによる紙芝居から、あやつり人形をつかった芝居を計画する。
- ③ 本題へ導く狂言回しとして、動物かんきょう会議のキャラクター「のら猫クロッチ」と「ワニのワニール」による寸劇を入れる。導入脚本は「動物かんきょう会議」原作者のマリルゥに依頼する。
- ④ 立体人形3体（牛を2体、ワニのワニール1体）を伝統的江戸あやつり人形一座の「一条座」に制作を依頼する。
- ⑤ 「一条座」の稽古場にて、一条座の役者による人形芝居を撮影。Animal SDGs 13番の教材用動画として編集する。

【参照】参考資料（その1）：「アマゾンの森と家畜」台本

- ① 脚本&動画教材：動物によるデモ「熱帯雨林を守れ！ 無駄に肉を食うな！」
QRコードから再生（5分）



② 脚本と動画教材：Animal SDGs 13番「牧場の牛」
QRコードから再生（5分）



[C] 10月～12月：イベント開催準備、広報掲載、チラシ・WebでのPR～集客

1：協働研究関連講座「三鷹！動物かんきょう会議」シラバス

文化・教養	「民学産公」協働研究事業関連講座		C215 5600
	Animal SDGs 第1回 三鷹！動物かんきょう会議（ワークショップ） ～南米アマゾンの森と「家畜たち」～【教室・オンライン同時開催】		
講座趣旨		講座開催概要	
さあ、今こそ動物たちと対話しよう！ 1/3は自分のために 1/3は動物（自然）のために 1/3は未来のために これは、自然と共生してきた世界の先住民の人たちに共通する考え方です。私たちは、いつの頃から、地球は人間だけのものであり、人間以外の動物、植物、鉱物にいたるまで、自分たちの財産や資源とみなすようになってしまったのでしょうか。 今あらためて、想像力の翼を広げ、動物たちの視点にたって人間たちの営みをみてみましょう。 【問い合わせ】 ヌールエ デザイン総合研究所 TEL:03-5315-4535 e-mail:sdgsworks@icloud.com		日 程	2021年12月19日 日曜日
		時 間	午後1時～4時30分
		定 員	市内小・中学生（親子での参加可） ①三鷹ネットワーク大学 10人 ②オンライン（Zoom） 10人 （それぞれ先着制）
		回 数	1回
		受講料	無料
		難易度	★☆☆
		会 場	①三鷹ネットワーク大学 10人 ②オンライン（Zoom） 10人 ご自身でオンライン会議アプリZoomをご用意ください。
		申 込	（株）ヌールエ デザイン総合研究所 申込専用フォーム（会場、オンライン選択あり） https://sdgsworks.com/zoo/03/ または、チラシ裏面の申込書での申込 申込期間：11月24日（水）午前9時30分から12月12日（日）閉館時間まで
12月19日	Animal SDGs 第1回 三鷹！動物かんきょう会議（ワークショップ） ～南米アマゾンの森と「家畜たち」～		
	SDGsの原因をつくっているのは人間たちだから…… 人間の大人たちだけからの学びで本当にいいのだろうか？むしろ、人間からたくさん被害を受け続けている動物たちと対話することが大切なのではないだろうか。子どもたちだけでも、親子いっしょでも参加できます。 専門家もゲストとして会議に加わります。動物たちといっしょに地球の未来について話し合いませんか。		
講師紹介（敬称略）			

イアン 筒井（いあん つつい）せかい！動物かんきょう会議 総合プロデューサー

1997年からはじめた「動物かんきょう会議プロジェクト」。動物になって考えることで既成概念の枠をはずし、自由にクリエイティブな発想ができる人材を育成したいと考えている。、2002年に絵本シリーズを発行、2010年にアニメシリーズをNHK Eテレで放送し、2018年よりSDGs未来都市の山口県宇部市、ときわ動物園をフィールドに、日本と世界の子どもたち、大人たちが創発しあう「せかい！動物かんきょう会議」を展開している。株式会社ヌールエ デザイン総合研究所 代表

河村 幸子（かわむら さちこ）東京農工大学大学院 農林共生社会科学専攻環境教育学研究室 博士課程

了徳寺大学非常勤講師。動物園環境教育について研究。「こども環境学」（朝岡幸彦 監修／新星出版社）監修協力

【参照】参考資料（その2）：第1回三鷹！動物かんきょう会議のチラシ

①：チラシによるプロモーション

Animal SDGs

第1回 三鷹！動物かんきょう会議

1 貧困をなくす 2 気候変動に具体的な対策を 3 健康な生活 4 質の高い教育をみんなに 5 女性も男性も平等に 6 きれいな水と衛生 7 持続可能なエネルギー 8 働きがい、経済成長、社会福祉 9 産業と雇用 10 人や生物の豊かさ 11 持続可能な都市と社会 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動対策 14 海の豊かさ 15 陸の豊かさ 16 平和と公正 17 協力して目標を達成しよう

今こそ、動物たちと対話しよう！

こんな環境問題だらけの地球にしたのは人間だから……
人間の大人たちだけの学びで本当によいのだろうか？
むしろ、人間からたくさんの被害を受け続けている動物たちと対話することが大切なのではないだろうか。
今あらためて、想像力の翼を広げ、地球環境を見てみよう！

オリジナルメンバーズールを参加者全員にプレゼント！

“南米アマゾンの森と家畜たち”

12.19

13:00 - 16:30
開場 12:30
(日)

【参加者募集】（親子での参加可）
対象者：小・中学生 定員：20名
参加費：無料
会場：三鷹ネットワーク大学
オンラインZoom同時開催

「三鷹！動物かんきょう会議」は子ども・若者・大人たちが動物の立場になってSDGsのテーマに向き合い、自然と人間が共生・共存していくための解決策を話し合う交流プログラムです。三鷹ネットワーク大学推進機構の「民学座」協働研究事業推進講座として開催します。

お問い合わせ：ヌールエ デザイン総合研究所 〒160-0022 新宿区新宿2-2-1 ビューシティ・新宿館904 TEL: 03-5315-4535
会場：三鷹ネットワーク大学 〒181-0013 三鷹市下連雀3-24-3 三鷹駅前協同ビル3階 TEL: 0422-40-0313

詳細情報は 申し込みは こちらから→

動物になって考える！^{子ども}世界が違って見えてくる！

動物かんきょう会議に参加する多彩な仲間たちからの気づき、カンカンガクガと楽しく対話しながら、解決策をいっしょに考えよう！

2020年、18日（土）東京チーム約450名参加のアマゾンの森が炎で燃えてしまった！

地球上の哺乳類の60%は家畜！家畜が気候変動に貢献していませんか？

家畜家畜が豊かになるとどういったことがあまるのだろうか？

家畜家畜をふもるには何をした方がいいのだろうか？

12/19 対話の場の流れ（当日は①～④まで）

① アイスブレイク ② テーマ物語（森と家畜のつながり） ③ 動物かんきょう会議 x 人間会議 ④ クロッチパズをプレゼント

▶ 後日、動物新聞を提出（自由参加）

ゲスト動物：イアン 筒井（いあん つつい）
「せかい！動物かんきょう会議」総合プロデューサー
2010年にアニメシリーズをNHK Eテレで放送し、日本と世界の子どもたち、大人たちが創発しあう「せかい！動物かんきょう会議」を展開している。

ゲスト動物：河村 幸子（かわむら さちこ）
東京農工大学大学院 農林共生社会科学専攻環境教育学研究室 博士課程
了徳寺大学非常勤講師、動物園環境教育について研究。
「こども環境学」（朝岡幸彦 監修／新星出版社）監修協力

【参加申込について】

新型コロナウイルスの影響により、プログラム内容が変更または中止になる場合があります。

※プログラムに参加される方は、事前の検温とマスクの着用をお願いします。 持参品：筆記用具

● 下記必要事項を記入後に FAX またはメールでお申込ください。
● WEB サイトからもお申込できます。 <https://sdgsworld.com/zoo/03/>

詳細情報は 申し込みは こちらから→

参加申込書 FAX : 03-5315-4536 [送付先] 株式会社ヌールエ デザイン総合研究所 e-mail: sdgsworld@icloud.com

《参加者》 ふりがな 氏名 氏名 氏名

《保護者の方》 ふりがな 氏名 氏名 氏名

《連絡先》 ご住所：〒 電話番号： メールアドレス：

※ 希望する会場に○をしてください 定員：20名 ※応募多数の場合は抽選

[] リアル会場：三鷹ネットワーク大学 [] リモート会場：Zoom アプリ（事前に連絡先アドレスをお知らせします）

②：WEBによるプロモーション

<https://sdgsworks.com/zoo/03/index.html>



東京三鷹市 三鷹ネットワーク大学「終了しました」

南米アマゾンの森と「家畜たち」
12月19日（日）13時～16時30分

募集：20名（親子での参加可）
募集締切：先着20名（定員に達し次第 募集終了）
締切期限：イベント開催1週間前

会場：三鷹ネットワーク大学（東京都三鷹市）
or ZOOMリモート参加

参加されるへ：事前の検温とマスクの着用をお願いします。
持参品：筆記用具



こんな環境問題だらけの地球にしたのは人間だから……
人間の大人たちだけからの学びで本当にいいのだろうか？
むしろ、人間からたくさん被害を受け続けている
動物たちと対話することが大切なのではないだろうか。

地球上の哺乳類の60%は家畜！
家畜が気候変動に関係していた！！

さあ、今こそ
動物たちと対話しよう

南米アマゾンの森と家畜たち

地球上の哺乳類の60%は家畜！
家畜が気候変動に関係していた！！

今、世界各地で多発している台風、洪水、森林火災などの
自然災害。地球温暖化の影響は深刻です。この温暖化が、
わたしたちの生活を支えてくれている「家畜」たちと大きな
関係があるって本当なの？



12月19日（日）13時～16時30分

会場：三鷹ネットワーク大学（東京都三鷹市）+リモート

募集締切：先着20名（定員に達し次第 募集終了）

締切日：12月12日（日）

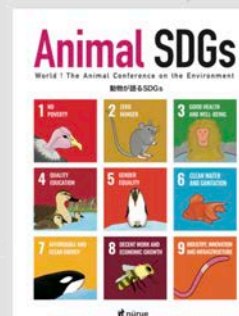
コンセプトブック『Animal SDGs』

動物が語るSDGs

私たちは、いつの頃から、地球は人間だけのものであり、人間以外の
動物、植物、鉱物にいたるまで、自分たちの財産や資源とみなすよう
になってしまったのでしょうか。今あらためて、想像力の翼を広げ、
動物たちの視点にたつて人間たちの営みをみてみよう

サイズ：A4変形 全頁カラー 150頁
価格：3,200円＋税

こちらで購入できます



[D] 11月～12月：「三鷹！動物かんきょう会議」シナリオ制作～実施（12月19日）

「三鷹！動物かんきょう会議」の進行役を担当する認定インストラクター2名（三鷹市在住、埼玉県在住）が東京農工大学の朝岡ゼミとの定例に加わる。ワークショップの内容、全体構成について話し合いを重ねながら進行台本をブラッシュアップする。ゲスト講師の河村幸子氏には、「子どもに、家畜のことをわかりやすく伝える」20分程度のお話づくりを依頼。

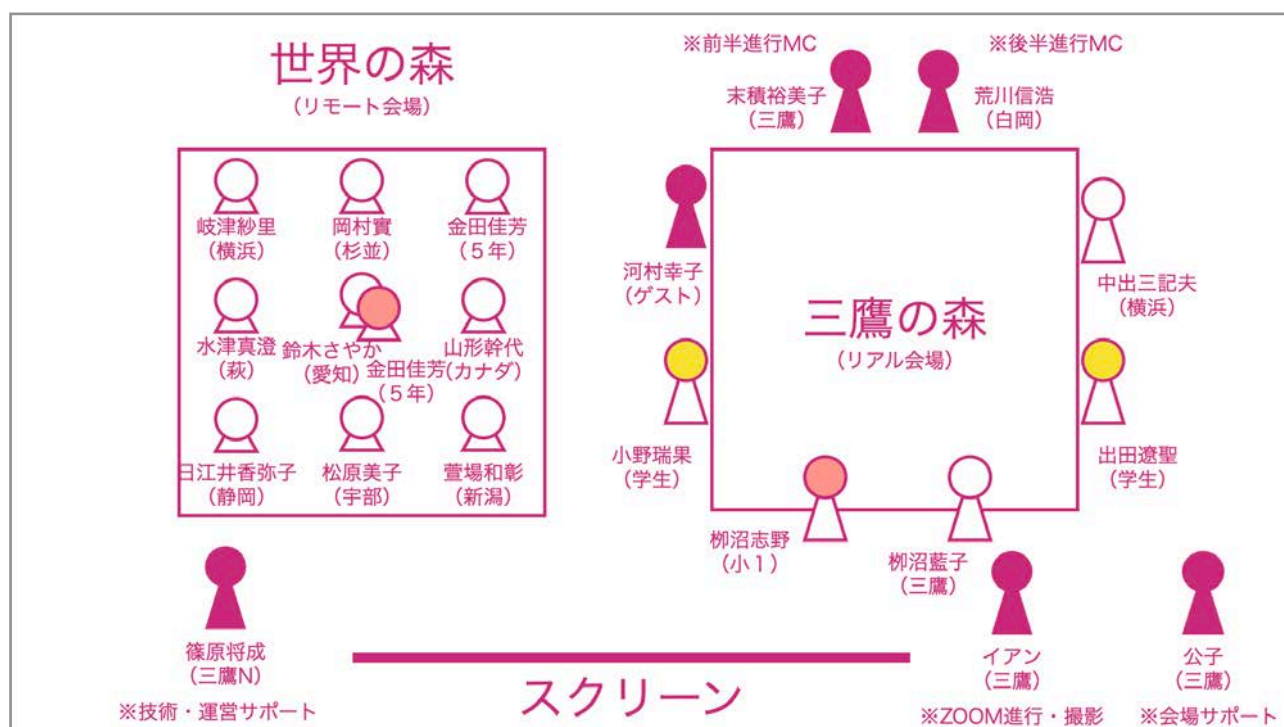
◎当日関係者

司会進行MC	6名
ゲスト講師	末積裕美子（前半） 荒川信浩（後半）
ZOOM進行・撮影	河村幸子
会場サポート	イアン
技術・運営サポート	筒井公子
人形芝居（動画）	篠原
脚本	一糸座（結城一糸、結城民子、結城敬太、他） 益田文和 マリルウ

◎当日参加者

リアル会場	5名（子ども1名、学生2名、社会人2名）
リモート会場	10名（子ども2名、社会人8名）

◎会場レイアウト：三鷹ネットワーク大学（教室ABCを使用）



【三鷹！動物かんきょう会議 タイムスケジュール】

	時間	内容	担当（現場5名）	使用するもの
準備	10:00	集合。テーブルセッティング、機材設置	末積・荒川・公子・イアン	・ビデオカメラ ・PC（スライド） ・iPad x 2
	11:00	リハーサル（リアル会場・ZOOM会場）	河村先生	
	12:45	開場	受付：公子	
第一部	13:00	スタート あいさつ・自己紹介	末積・荒川・イアン	
	13:10	動物かんきょう会議とは？	イアン	・スライド（イアン作成） ・ゾウさんペーパー
	13:25	【Work1】人間→動物へ		
	13:30	今日のテーマについて ・南米アマゾンの動物について？ ・家畜たちについて？	末積	・スライド（末積作成） どうして動物に？
	[20分]	[作業] 動物キャラクターづくり		・A3画用紙・キャラクターワークシート
	[20分]	[発表] 動物キャラクターの発表	リアル：末積（ニワトリ） OL：イアン（ウシ）	
		[対話] 動物キャラクター同士で →人間に言いたいことはありますか？		
	14:10	→動物おやつ（休憩）		
第二部	14:15	【Work2】動物たちからの訴え～動物会議	イアン（ウシ）	・スライド（イアン作成）
	[15分]	[視聴] 人形芝居「ワニールとクロッチの会話」		・動画
		[視聴] 人形芝居「牛の4番、13番」		
		→芝居でのむずかしい箇所を解説	河村先生（モルモット？）	・スライド（河村作成）
	[20分]	[対話] 動物キャラクター同士で	リアル：荒川（ブタ） OL：イアン（ウシ）	
		[発表] 人間たちへの訴え（マイク）	末積（ニワトリ）	
	14:50～15:00	→動物から人間へ（休憩）		
第三部	15:00	【Works3】人間会議（リアル&OL）		
	[25分]	・人間確認（ニックネーム）		・台本、スライド（荒川作成）
		・対話「人間としてできることを考えよう」 （リアルグループ、オンライングループ）		
	15:25 [15分]	・対話をとおして感じたことを整理する。 それぞれがあるべき姿を絵で描く（画用紙）		
	15:40	・発表		
	[20分]	→一人ずつ発表する		
第四部	16:00	「家畜について」のお話（ゲスト：河村先生）		
	[20分]			
	16:20	撮影等		
	16:30	終了		
		後片づけ		

当日の風景

① Youtube (3時間30分)

せかい！動物かんきょう会議 in 三鷹ネットワーク大学
「南米アマゾンの森と家畜たち」



Animal SDGs

第1回 三鷹！動物かんきょう会議



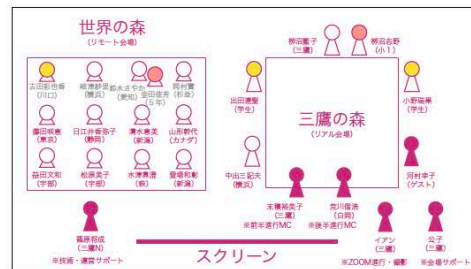
② 記念撮影



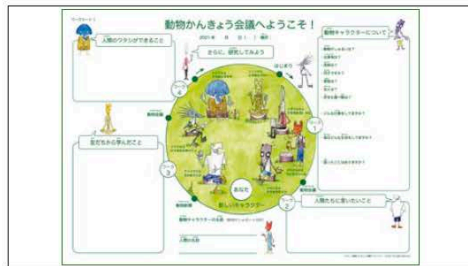
③ スライドの構成

-

1



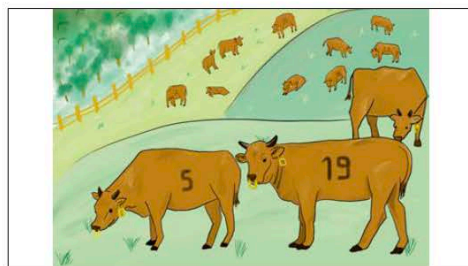
2



3



4



5



6



7



8

[7] 実験結果

イベント参加者から「アンケート」と自由参加の「動物新聞」を回収した

【参照】参考資料（その3）：アンケート 7名分

① インストラクター・ゲスト・参加者へのアンケート

三鷹！動物かんきょう会議 アンケート（インストラクター・ゲスト用）	
問1	「三鷹！動物かんきょう会議」プログラムの実施時間は適切でしたか。 1 長い ② 適切である 3 短い 気がついたこと 時間配分として、もう少し会議部分の時間があると良いのではないかと感じた。特に動物になりきって話し合う時間が欲しいと感じた。
問2	自分自身について：インストラクター役・ゲスト役を務めてみていかがでしたか？ 1 大満足 2 とてもよくできたが、課題もある ③ やや不満 気がついたこと 初めてではあったが自分が楽しもうと意識をもって参加はできたが、もう少し自分なりに準備をする必要があったのではないかと感じている。ご意見を伺い改善していきたい。
問3	動物かんきょう会議「家畜」プログラムへの感想をお聞かせください。 1 自己紹介～動物キャラクターづくり（要改善 1--②--3 グッド） 2 ワニールとクロッチ、牛の人形芝居（要改善 1--2--③ グッド） 3 動物会議／会場とリモート（要改善 1--②--3 グッド） 4 人間会議～環境宣言／会場とリモート（要改善 1--②--3 グッド） 5 ゲスト動物のお話（要改善 1--2--③ グッド）
問4	よかったと思われる点について教えてください。 人形芝居は非常に良いと感じています。特に、動画を見て説明を聞くのとは違って、自然にお話が入ってきたように思います。子どもにとってもとても良い表現だと思います。 ゲストのお話について、さらに具体的にお話をお聞きできることは、整理するためにも重要だと感じました。今回、河村先生がとても丁寧にゆっくりお話くださったこと、そして、詰め込んだ内容ではなく重要な部分のみにターゲットを充てていたことが大変良かったと感じます。
問5	気になられた点、改善したほうがいいと思われた点について教えてください。 全体として会議部分の時間がもう少しあったほうが良いと感じました。動物会議では絵を描く時間はある程度良いと感じましたが、話し合いについては、もう少し時間がほしいと思います。例えば10分多くなるだけで、より互いの話していることが深く理解でき、自分の考えもさらに深まるのではないかと感じました。

問6 担当したテーブル（子ども・大人）の雰囲気はいかがでしたか？

みなさんで自分の意見を前向きにお話ただけたと感じています。また、相手の意見をしっかり聞いて、自分なりの意見を発言されていてとても良い雰囲気でした。

問7 ゲスト動物（河村先生）のお話はいかがでしたか。

とても丁寧にお話をしてくださりわかりやすかったです。良かった点にも書いたことと重なりますが、難しい言葉ではなく、わかりやすい言葉を使用し話すスピードもとても聞きやすいスピードでした。内容においても時間の中で、ポイントであると思われる項目でしたので、情報を整理する必要がなく、自然にお話を理解できていました。

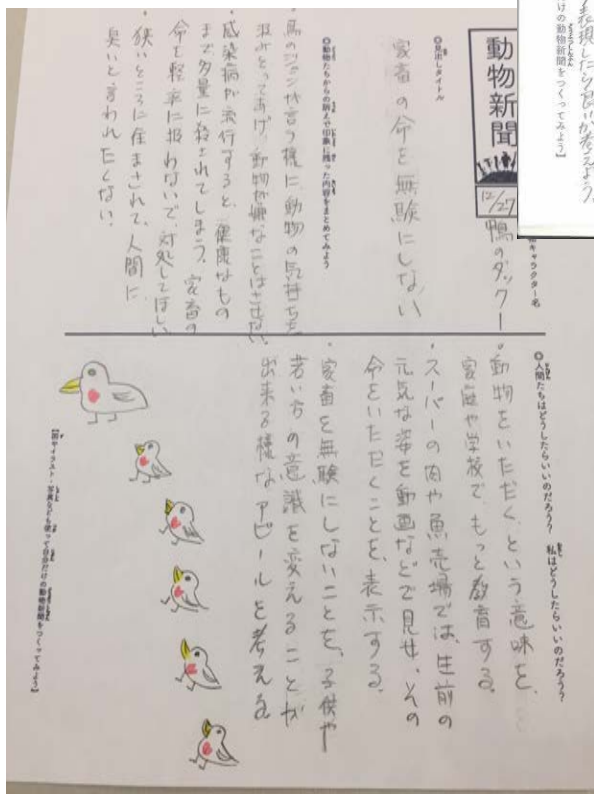
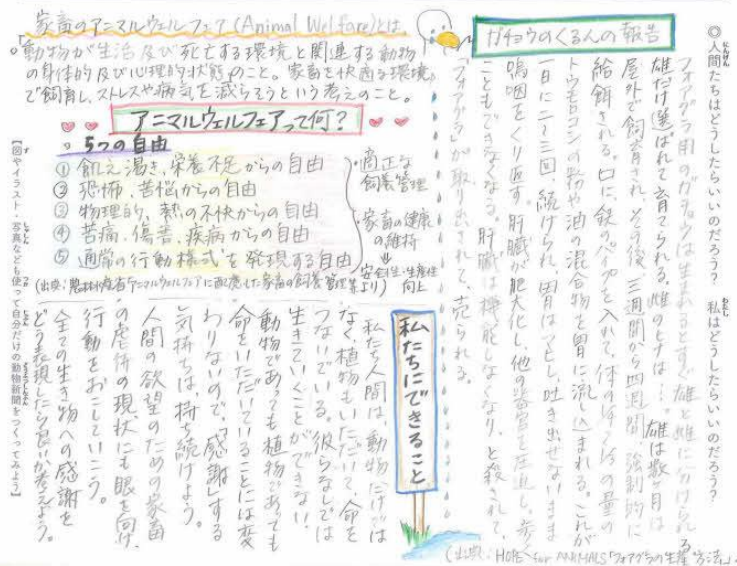
問8 その他、動物かんきょう会議について、気づいたことやご意見、ご提案、ご要望がありましたらお聞かせください。

子ども向けにワイワイガヤガヤやってみたいですね。
特に、小学校1～3年生ぐらいであれば、どんな意見が出てどのような発想で解決するのかとても楽しみです。もちろん保護者にはも参加いただき、子どもVS大人は楽しいだろうと思います。(先日の動物かんきょう会議のように)
今後、この動物かんきょう会議の次のステップがいくつかのパターンで進められると良いなと感じました。
今回、参加させていただきありがとうございました。 荒川

上記は、当日進行役インストラクターの感想。

【参照】参考資料（その4）：動物新聞 5名分

② 自由参加。会議で気づいたことをテーマに新聞などで表現して事務局に提出



〔8〕実験の考察

本協働研究活動をととして、3つの成果がある。

- 1：コンセプト「Animal SDGs」をデザインできた。
- 2：「家畜」をテーマにした対話型プログラムが完成した。
- 3：多摩地域リソースの「東京農工大学」「江戸あやつり人形 一糸座」と連携してオリジナルコンテンツを開発できた。

コンセプトブック「Animal SDGs」を制作するにあたり、13番「気候変動」パートでは、「家畜」に着目した内容ができた。これまでは、野生動物を中心に会議をしてきおり、より身近な「家畜」にアプローチできたことは、おおきな一歩である。

「家畜」は、牛・豚・鶏などの人間に食べられる動物や、医薬品開発の生体実験にされる動物、アパレルに利用される素材としての動物に加え、ペットとして売買される犬や猫なども家畜と定義されていることを知る。また、家畜という存在は、人間にとって都合よく管理できるように「徹底的に改良された生きものである」ことを知る。

しかし近年、世界では人間のために屠殺される動物たちの権利が議論されていることも知った。それは、動物衛生の向上を目的とする「動物福祉」（アニマルウェルフェア）の取り組みであるが、わが国全体の意識はとても低い状態にあることを知る。

アニマルウェルフェアを実現すると、

- ①消費者にとっては商品価格が1.5～2倍となり都合が悪い。（卵の場合は2倍）
- ②生産現場でも動物飼育のために新たな投資が必要となり都合が悪い。等々

消費者・生産者ともに、自分にとって不都合なことは、知りたくないし、聞きたくもないという心理が、子どもたちに情報を伝えないことにつながっているのだと想像した。気候変動の大きな原因の一つが、家畜のゲップやおならで、悪者にされている不条理。今回のストーリーでは家畜の人間への憤りをシンプルに表現することができたと考える。

朝岡先生が環境学を子どもに教える意義は「環境問題はすぐには解決策は見つからないが、知ったことによる責任がうまれること」「子どもたちの頭に記憶されることが将来の行動につながる」と語られたことに刺激され、より記憶に残る表現を探究した。

人間の脳は「人間脳（大脳）」「動物脳（大脳辺縁系＋脳幹）」の3層で構成されるという。感情をつかさどる役割があるとされる大脳辺縁系には、言葉（左脳）よりも感覚（右脳）表現の方がストレートにつながることが脳科学で実証されている。

人間と家畜との関係をどのように伝えるか。今回の実験では、これまでの「絵本」「動物キャラクター（擬動物化）」「アニメーション」などのアート手法をさらに一歩進めて「演劇」という表現を試みた。アンケートからは「難しい内容もあるが、人形芝居という表現にすることで、子どもたちにもテーマが伝わりやすくなった」との回答があり、「伝え方」面では成功と考える。

どんな動物が家畜(かちく)なの？



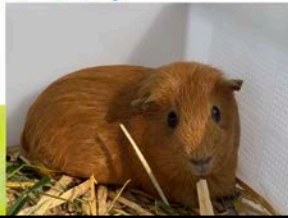
(1)哺乳(ほにゅう)類

ウシ、バリウシ、ガヤル(インドヤギウ)、ヤク、スイギュウ、メンヨウ、ヤギ、フタコブラクダ、ヒトコブラクダ、アルパカ、ラマ、トナカイ、ブタ、ウマ、ロバ、イヌ、ネコ、ウサギ、マウス、ラット、モルモット、ハムスター、ミンク、フェレット。

(2)鳥類 ニワトリ、シチメンチョウ、ホロホロチョウ、ウズラ、アヒル、バリケン、ガチョウ、イエバト、カナリア。

(3)魚類 コイ、キングョ、グッピー。

(4)昆虫類 カイコ、ミツバチ。



家畜になるきっかけは？

よしよし

なに やってんだ あのパカブタ!

わーい
すずしくて
超気持ちいい~!
おじさん
おなかも
ちょっとすいたよ…
ごはんまあだ?

家畜化に伴う変化
(1)
(2)

ヒトの生活に
近づいてきた動物が
ヒトと暮らすように
なった。

(1)攻撃性(こうげきせい)が
なくなる
(2)飼い主に従(したが)うよ
うになる

出典：動物行動学

家畜になった動物を改造(かいぞう)

ウズラ…卵を温めなくする(毎日卵を産むために)

ウシ…脂肪の多いからだ

生まれて早い時期に、オスはお肉に

毎日、お乳をしほらないと死んでしまう

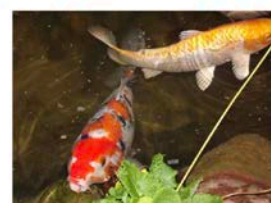
メスはお乳が出なくなったら、お肉に

ヤギ…お乳が出なくなると、お肉に

イヌ…ペットとして売れないと、殺処分(さつしよぶん)

ウマ…お肉にされるウマは、体が大きい

コイ…めあての模様にならないと処分(しよぶん)



12月19日（日）に実施した「三鷹！動物かんきょう会議」の集客面についての考察。

①これまでに経験のない新しいテーマ「家畜」での対話であること

②子どもたちにどの程度までの内容を伝えるかの検証が不十分であること

以上の観点から、一般参加者の集客は積極的には行わず、「動物かんきょう会議」の関係者（全国のインストラクター）を中心にシュミレーションする機会とした。

三鷹ネットワーク大学に設置したチラシとWEBによるプロモーションによる新規参加者は10名。全国のインストラクター5名。リアル会場＋ZOOM会場によるハイブリット仕様で第1回「三鷹！動物かんきょう会議」は開催した。

アンケートの結果、テーマへの関心は高く、ゲスト講師の河村幸子氏が作成したプレゼンテーションは好評で、配布資料を持ち帰りたいという声もあり、対話型プログラムとしておおむね良好の手応えを感じた。「アニマルウェルフェア」の意識を醸成するプログラムとして、内容面でもスタートラインに立てたと考えている。

「アニマルウェルフェア」について（農林水産省）

我が国も加盟しており、世界の動物衛生の向上を目的とする政府間機関である国際獣疫事務局（OIE）の勧告において、「アニマルウェルフェアとは、動物の生活とその死に関わる環境と関連する動物の身体的・心的状態」と定義されています。

アニマルウェルフェアについては、家畜を快適な環境下で飼養することにより、家畜のストレスや疾病を減らすことが重要であり、結果として、生産性の向上や安全な畜産物の生産にもつながることから、農林水産省としては、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた家畜の飼養管理の普及に努めています。

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html

[9] 今後の計画

【参照】参考資料（その5）：Animal SDGs企画書 Ver1

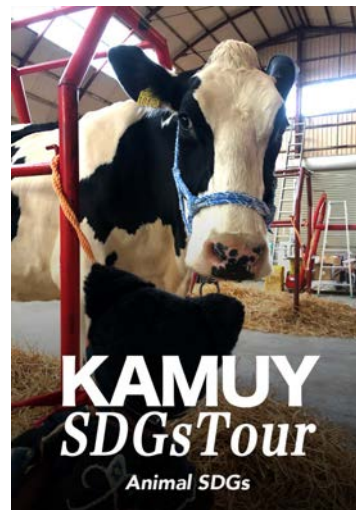
今後の計画としては、次の3つを掲げる

- 1：本協働研究コンテンツをAnimal SDGsのコンテンツとして広く発信する
- 2：本コンテンツを入り口にしつつ、実際に「家畜」と触れ合う機会を計画する
- 3：三鷹らしさの追求。井の頭自然文化園との連携を計画する

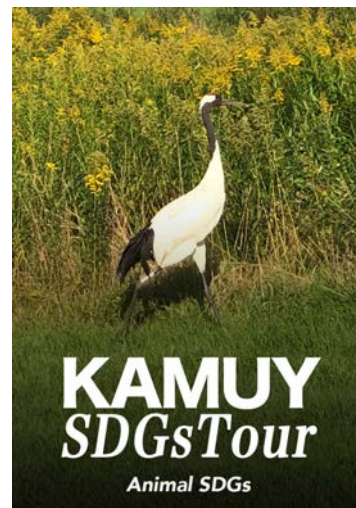
（1）Animal SDGsの公式サイト（英語・日本語）を3月公開
<https://www.animalsdgs.com>



（2）家畜と気候変動問題を知る → 家畜への興味関心
→実際に家畜と触れる（牧場体験）



- ・絶滅危惧種の「タンチョウ」をテーマに動物園の役割と、北海道鶴居村でのタンチョウ保護活動をととして人間と動物の共生を考える



以上です。

[10] その他

参考資料（その1）

「アマゾンの森と家畜」 台本

参考資料（その2）

「第1回 三鷹！動物かんきょう会議」 チラシ
当日の進行スライド

参考資料（その3）

アンケート

参考資料（その4）

動物新聞

参考資料（その5）

Animal SDGs 企画書（Ver1）